

# 富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

## 2021年（令和3年）7月から9月

- 1 調査期間 2021年（令和3）年7月～9月（第2四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

農 業	1社
製 造 業	12社
建 設 業	1社
小 売 業	3社
サービス業	1社
飲 食 業	3社
観 光 業	1社
計	22社
- 4 調査項目
  - ① 3か月前と比べて
  - ② 前年同期と比べて
  - ③ 3か月後の見通し
  - ④ 環境問題意識調査※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況 DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

volume 2

主管 ふじみまち産業振興センター

## <概況>

3か月前と比べると全体の業況DIは+12から+4.5と7.5ポイント減少している。少しブレーキがかかってきている。その要因は、製造業の落ち込みが19ポイントあり、全体の数値を下げている。

業種別では、製造業は業況DI値を見ると第1四半期よりも19ポイント下がっている。3か月前よりも少し雲行きが怪しくなってきたと感じる。その原因は経営者の眼にもあるように、材料の高騰あるいは材料や資材の不足が挙げられる。

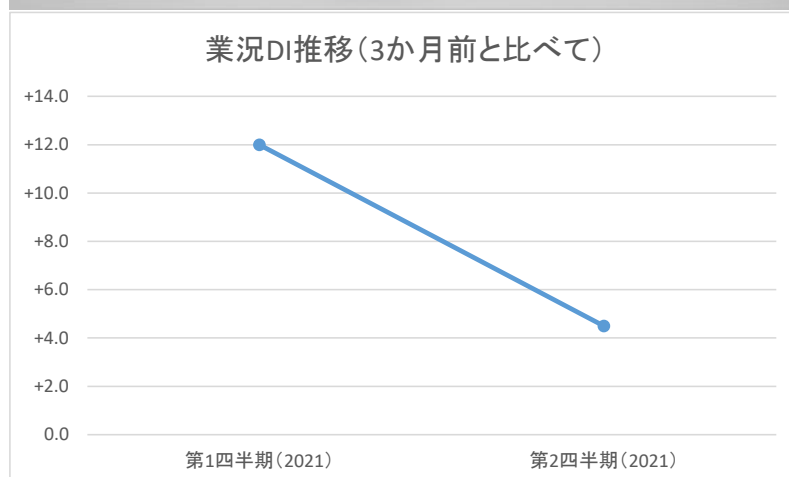
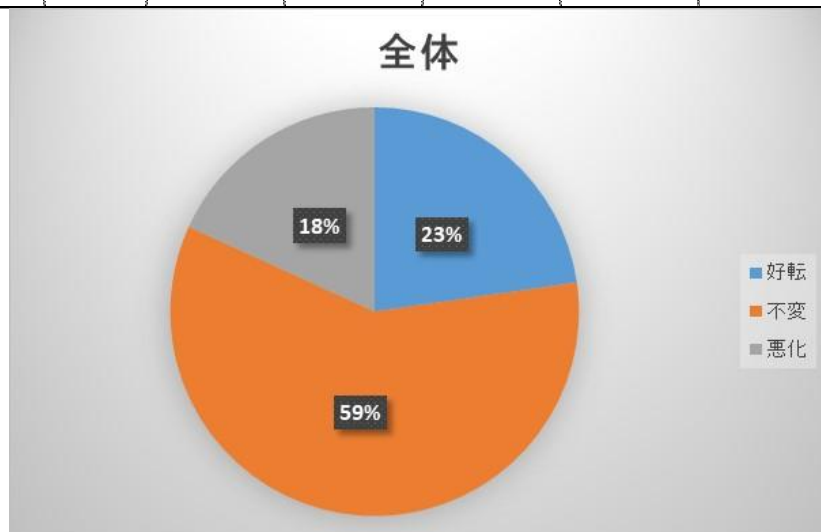
新型コロナウイルス感染症の影響をまともに受けている飲食業は、第1四半期に比べて33.3ポイントマイナスである。第2四半期は全国的にみても新型コロナウイルスが爆発的に増えて、長野県の感染レベルも緊急事態宣言直前のレベル4まで引き上げられた。

また、今回の調査では環境問題意識を調査した。2020年10月に菅前総理がカーボンニュートラルを宣言して、2050年までに温室効果ガスの排出量をゼロにすることを宣言をした。

このことを踏まえて、調査対象事業所の意識調査をしたものである。その結果は、「特に何もしていない」が一番多くなっているが、できることから始めるということで、「省エネに取り組んでいる、または1年以内に取り組む予定である」事業所も10社ある。環境問題については大小にかかわらずどの事業所も関係してくることではあるが、実際の現場では何から取り組んで良いかわからない事業所も多いのではないかと感じた。

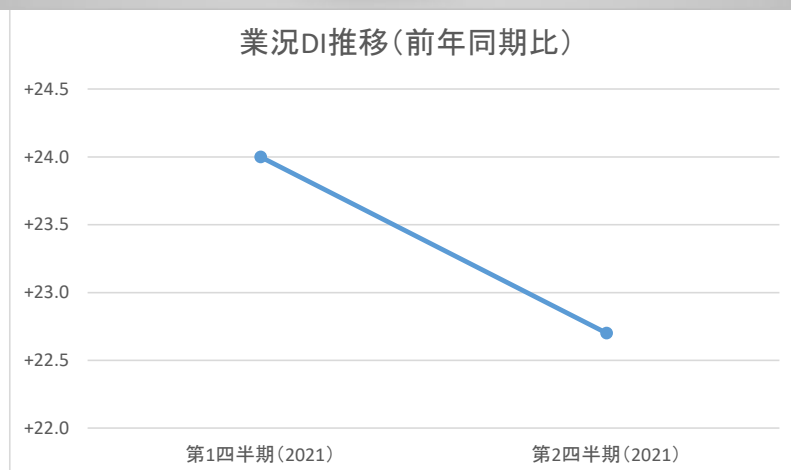
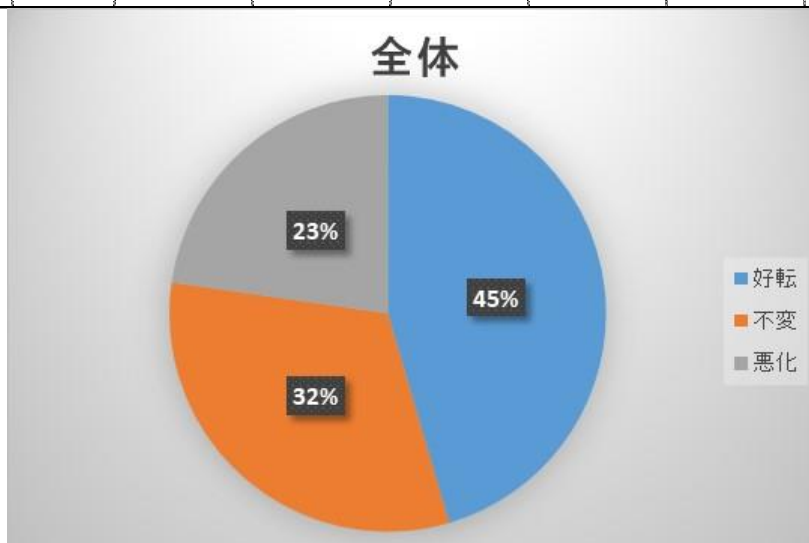
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回比
全体	実数	5	13	4	22		
	構成比	22.7%	59.1%	18.2%		+4.5	↘
農業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
製造業	実数	3	7	2	12		
	構成比	25.0%	58.3%	16.7%		+8.3	↘
建設業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
小売業	実数	1	2	0	3		
	構成比	33.3%	66.7%	0.0%		+33.3	→
サービス業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
飲食業	実数	1	0	2	3		
	構成比	33.3%	0.0%	66.7%		-33.3	↘
観光業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	↗



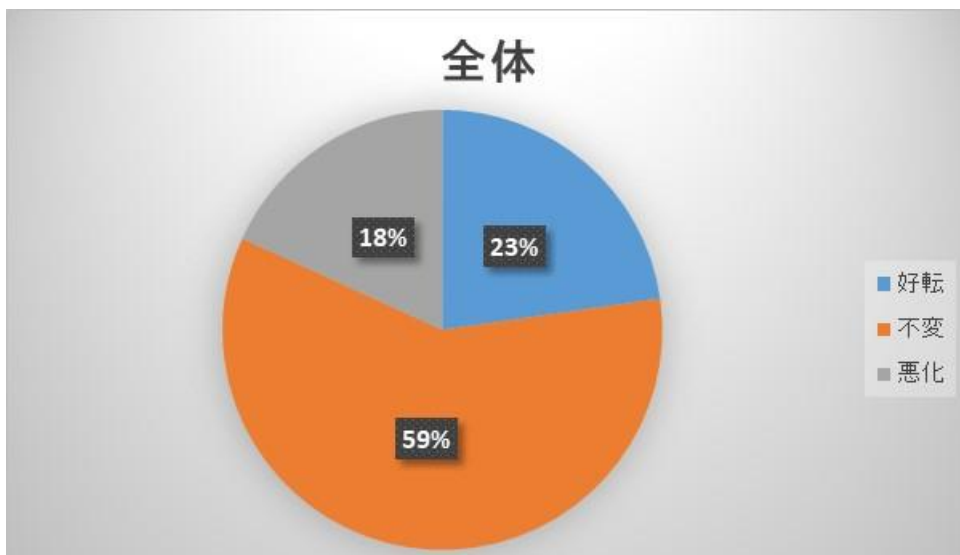
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回比
全体	実数	10	7	5	22		
	構成比	45.5%	31.8%	22.7%		+22.7	↗
農業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
製造業	実数	8	2	2	12		
	構成比	66.7%	16.7%	16.7%		+50.0	↗
建設業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
小売業	実数	1	1	1	3		
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	→
サービス業	実数	0	1	0	1		
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	→
飲食業	実数	1	1	1	3		
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0	↗
観光業	実数	0	0	1	1		
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0	↘

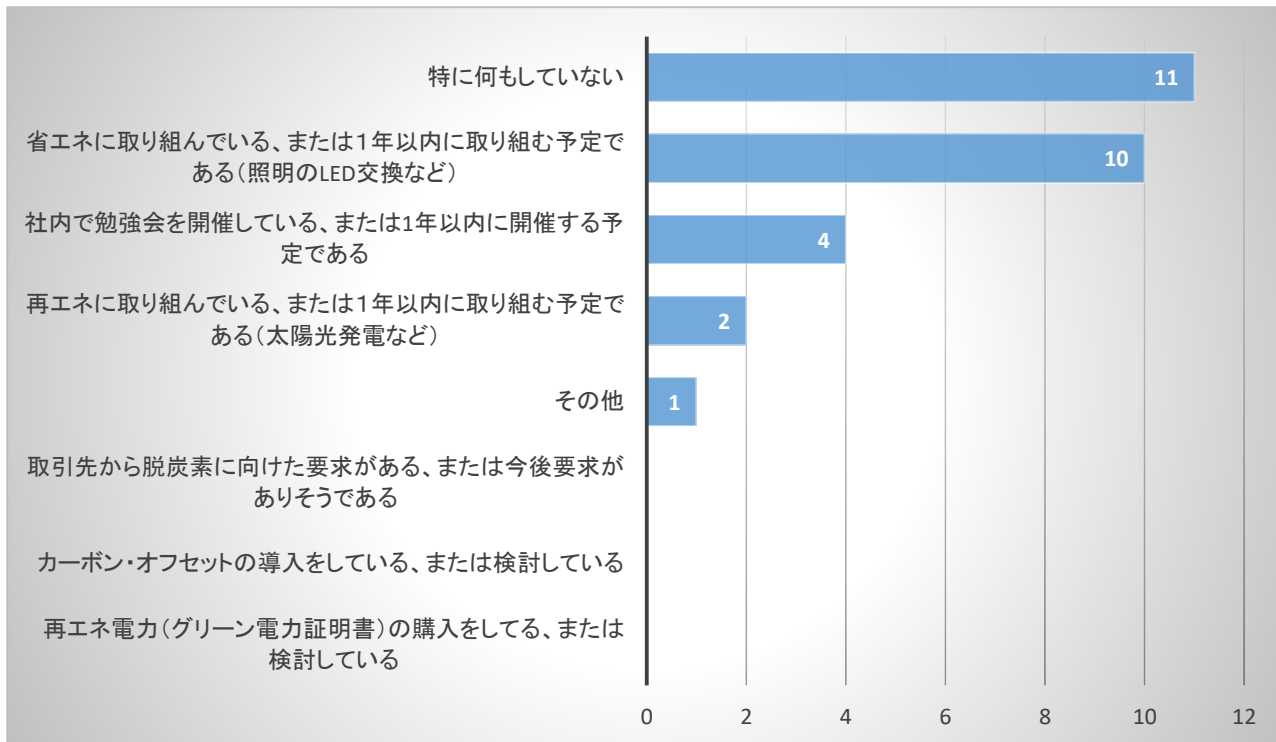


<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI
全体	実数	5	13	4	22	
	構成比	22.7%	59.1%	18.2%		+4.5
農業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
製造業	実数	2	8	2	12	
	構成比	16.7%	66.7%	16.7%		0.0
建設業	実数	0	0	1	1	
	構成比	0.0%	0.0%	100.0%		-100.0
小売業	実数	1	1	1	3	
	構成比	33.3%	33.3%	33.3%		0.0
サービス業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0
飲食業	実数	2	1	0	3	
	構成比	66.7%	33.3%	0.0%		+66.7
観光業	実数	0	1	0	1	
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0



#### <項目4> 環境問題意識調査



(複数回答あり)

<経営者の眼（見方）>

半導体部品不足による受注数の調整が発生しているが、全体的には毎月一定数の受注が継続している。材料の高騰により、社内での生産効率向上の検討を進めるほか、製造原価高騰を少しでも吸収できるよう取り組んでいる。	製造業
当社の場合海外需要に依存する部分が多く、それがあまり安定していないため見通しの予測が困難である。	製造業
コロナウイルス感染者数も10月に入り随分と減少し、予約をはじめ来店客も戻りつつあるが、2019年のレベルまでは回復していない。また、冬季になるとコロナウイルス感染者の増加も予想され見通しは依然不透明である。	飲食業
県・町の仕事が取れば良いと思うが見通しは今のところなし。冬季に入り降雪があれば除雪箇所を多くもっているなのでその対応にあたる。	建設業
コロナ過でのステイホーム需要で消費が伸びているが数年先には落ち着くと思われる。	農業
動向を見ながらではあるが更なる景気加速の可能性はある。	製造業
景気の動向としては決して好転はしていませんが、自社で行った対策により業績は上向いています。今後の見通しとして、景気は引き続き低調と見込みますが、引き続き対策をとっていくつもりです。	製造業
あまり変動は無いと思われませんが、現状を維持する。	サービス業
コロナの流行次第でしょうか。	観光業
今後、資材不足・材料高騰など下振れ要因が多々あり、また、メーカーの営業方針にも影響を受けるため先行き不透明感が強まっています。	製造業
今後もコロナの影響に左右されるのは必至ですが、町振興券に感謝し期待しています。	飲食業